

(様式1)

令和4年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立小梅小学校
校長名	増淵 裕美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・昨年度の目標に掲げていた「高学年理科の平均正答率を目標値よりも5ポイント以上上回るようにする」については、第4～6学年の3観点全てにおいて5ポイント以上上回るという結果となった。特に、昨年度の第5学年のときに知識・技能が目標値に到達しなかった第6学年が、今年度においては13.2ポイント上回る結果となり、1年間の研究の取組や学習の成果が表れる結果となった。・第2～6学年までの全51観点中49観点において、全国平均を上回った。日頃の授業に加え、学力向上タイムや放課後学習、家庭学習での取組の成果と考えられる。	<ul style="list-style-type: none">・社会科においては、どの学年も他教科に比べると、課題が見られる。基礎的な知識の定着を図るとともに、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を付けていく必要がある。また、選択問題を誤ったことにより、正しい評価を得ることができない学年があった。再発防止策を考えていく。・さらなる学力向上を目指すには、B層の割合が多いため、B層の児童をA層に引き上げる必要がある。・どの学年、教科にも15%前後のD層の児童がいる。D層の児童をC層に上げる指導の工夫が必要である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。」の設問については、どの学年も全国平均より上回っており、学級や家庭でのやり直しの習慣が身に付いていると考えられる。・「授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。」の設問については、高学年になるにつれ、肯定率が上がっており、自主学習等の成果が見られる。	<ul style="list-style-type: none">・「土日や祝日など、学校が休みの日は、1日にどれくらい勉強をしていますか。」の設問については、第3学年～第6学年で、全くしないと答えている児童が20%前後おり、休みの日に家庭学習の習慣がない児童がいる。・高学年に比べ、低学年の方が学級の規範意識や学級の絆の標準スコアが低い傾向にある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査結果を見ると、国語科「書くこと」領域においては、全国平均正答率より21.9ポイントも高い結果となった。・全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果を見ると、「調べる場面」でタブレット端末を	<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査結果を見ると、今年度理科の記述問題が他の問題に比べ、平均正答率が低い傾向が見られた。・自分の考えを発表することに抵抗感がある児童が多い。

<p>「ほぼ毎日使用している」割合が全国より43.1ポイント高く、「自分の考えをまとめ、発表する場面」で「ほぼ毎日使用している」割合が30.1ポイント高い結果となった。</p> <p>・理科の校内研究で実施した理科アンケートでは、1年前と比較し、「予想を立てる」を好きと答えた児童が学校平均で約5ポイント上昇した。</p>	<p>・算数では、計算間違い等のケアレスミスをしてしまい、失点することがある。ワークテストでも、図や途中式を書いたり、見直したりする習慣が必要である。</p>
---	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 校内研究でのさらなる指導力向上と授業改善

昨年度に引き続き、「理科・生活科における思考力・判断力・表現力の育成」の研究を進める。今年度は、目指す児童像を「なるほど!」、「なぜだろう?」を次の学びにつなぐことができる子とし、正しい答えを知って終わりではなく、「他にどんな方法があるか」、「どうしたらもっとよくなるか」、「次は何をしたいか、何を知りたいか」を考えられる子供を目指していく。

【具体的な取組】

- ・理科の授業における学習の流れ（問題→予想→実験方法→結果→考察→結論）の徹底。
- ・板書やノートの書き方についての学校全体での共有。特に、「考察」の書き方指導の工夫。
- ・生活科における考察する力、表現力を身に付けさせるための「書き方モデル」の検討。
- ・実感を伴った理解を導くための、教材や活動内容の工夫。
- ・常に既習事項を使った解決方法を考えさせ、既習事項の活用を学習習慣とする。
- ・学習感想（児童の願いや疑問）を大切にしたい指導計画。

(2) 基礎基本の確実な定着

- ①「小梅スタンダード7」（改訂版）で、学習規律の維持徹底を図る。
- ②学力向上タイム（週2～3回）では、国語・算数だけでなく、理科や社会科、情報活用能力に関する内容にも計画的に取り組む。5～6年生においては、「新聞記事を活用した教材」に取り組み、実用的な文章から必要な情報を読み取る機会を増やす。
- ③プリント、小テスト、単元テスト等において、決められた時間内に正確に解く練習を積み重ねたり、見直しの習慣化を図ることにより、ケアレスミスや無回答を無くす。（B層児童のA層への引き上げ）
- ④社会科の学力向上を目指し、ふりかえりシート、ミライシード、市販の問題集で習熟を図るとともに、「指導のポイント」を共通理解し、指導に生かす。
- ⑤学習方法のさらなる工夫を考える。（タブレット端末を使った学び合いの工夫等）
- ⑥毎週金曜日の朝読書を徹底し、語彙力を身に付けさせる。
- ⑦校長講話作文の取組により、話の内容を適切に捉え、さらに自分の経験や考えをまとめる練習の積み重ねをする。

(3) 学力向上委員会の組織的な取組

- ・月1回、学力向上委員会を開き、学力向上に向けた取組の確認を行う。
- ・学力向上委員会で墨田区学習状況調査の分析を行い、正答率が低かった単元、分野について共通理解を図り、授業改善に生かす。
- ・D、E層児童の、後期放課後学習教室への参加を促し、C層への引き上げを図る。
- ・10月、1～4月のふりかえり月間で、ふりかえりシートやミライシード、理科問題データベースに重点的に取り組む。
- ・3月、4月には、墨田区学習状況調査、全国学力・学習状況調査の過去問に2回以上取り組む。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各教科B層からA層への引き上げを目指す。A層の児童が5%増加することを目指す。
- ・各教科の記述問題の無回答率を15%以下に減らす。
- ・令和5年度 墨田区学習状況調査では、社会科の平均正答率が目標値よりも5ポイント以上上回るようにする。